■活躍が期待される新たな分野　環境

しなやかにエコスタイルを創る女性たち

環境省中部環境パートナーシップオフィス　チーフプロデューサー　新海　洋子

女性が選ぶエコスタイル

環境問題には女性の視点が欠かせない、とよく言われる。なぜならその解決には、多くの女性がもつ生活感覚が重要視されているからだ。地域においては女性が中心となって環境活動を実施している事例が多々ある。また昨今、新しい動きが生じている。2004年の環境ビジネスに携わる女性企業家を対象にした懇談会をきっかけに、「環境ビジネスウィメン」という団体が設立され、女性企業家の支援が行われている。2007年には、エコ志向の女性がファッションやコスメからおしゃれに社会や環境問題に向きあう「EcoLuxe2007」というイベントが開催された。女性たちは関心のある部分で主体的に新しいスタイルで「エコ」に取り組み始めている。女性が仕事を生み出す、モノを選ぶという行為を通して、環境価値を社会に反映させようとしている。

しなやかに表現し、ゆるやかに導く女性たち

私は大学卒業後、NGOを職業とし、社会や地域の課題に向き合い、その解決方法を市民とともに模索してきた。そこでは、女性たちが発する斬新な提案や暮らしに根づいたネットワークが、課題解決のヒントやツールとなった。10年ほど前に出会った女性たちは、「ごみを減らしたい。リサイクルできるものを燃やしたくない」、そんな強い思いをもっていた。そして、行政や企業、市民団体に相談を持ちかけ、地域で何度も議論を重ねながら自らが暮らす学区に民間のリサイクルシステムを作り上げた。回収日には主体的にリサイクルステーションに立ち、地域の人々に分別方法やゴミ問題の現状を伝えていた。また、里山で生き物の命やつながりの大切さを子ども達に毎週のように伝えているNPOスタッフ、小学生を対象にした環境学習事業や市民との対話を目的にした環境コミュニケーション事業を担当している社員など、この地域には活躍をしている多くの女性たちがいる。彼女らは、こうあるべきだ、と理想論だけを掲げるだけではなく、社会の作り手として、それぞれの場で自分らしく表現し、取り組んでいる。

ここでは、多様な業種で活躍している女性を紹介したい。女性であることの壁にぶつかりながらも、やるべきことを貫く精神力と、しなやかに表現する柔軟性を持ち合わせている。それぞれの得意分野でゆるやかに地域の環境課題の解決を導いている。この5人の女性たちと一緒に仕事をすると、私自身がエンパワーメントされ、より絆が深くなり、影響力のある仕事を創出することができる。

■ビジネス分野で活躍する女性

ユニー株式会社環境社会貢献部長の百瀬則子さんは、店舗から排出される生ゴミを堆肥化し、活用して野菜の栽培、さらには店舗販売、という食品リサイクルループを完成させた。また、店舗や自然学校での環境学習やレジ袋の有料化などの事業を実施。多様なアプローチが評価され、環境省「エコ・ファースト企業」の認定を受けた。百瀬さんの戦略とアクティブさにいつも圧倒させられる。

百瀬則子さん

若手デザイナーである林由香さんは、プランニングオフィス・ラグーン有限会社に勤務し、環境に配慮したファッション・インテリア業務を中心とした商品企画・デザイン活動、大手量販店のホームページや環境学習ツール製作を行っている。環境関連のイベント・ワークショップのプロデュースを手がけるなど、環境とデザインをコラボレーションさせ、斬新な企画を社会に提示している。

林由香さん

しんかい　ようこ
環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー
大学卒業後、財団法人名古屋YWCAで、異文化理解、青少年育成に関する事業を担当。その後NPO法人中部リサイクル運動市民の会に移り、行政・企業との協働による「リサイクルステーション」「環境教育」などを担当。現在は、市民ニーズを行政や企業に届ける協働型政策事業を実施。NPO法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議、NPO法人ボランティアネイバーズ、NPO法人地域の未来・志援センター理事。

カースティ・祖父江さん

カースティ・祖父江さんは、ワードツリーというイギリスにある会社の社長である。翻訳・通訳・コミュニケーションが専門であり、愛知万博の際に愛知県と国連環境計画が開催した「子ども環境サミット」にてコーディネーターなどを務めた。現在イギリス湖水地方にて日本向けマーケティング事業を開始し、日本とイギリスを年数回往復しながら、ナショナルトラストや持続可能なツーリズムなど日本企業の社会貢献や旅行業界のアドバイザーとして活躍している。

■政策からアプローチする女性

高木丈子さんは、環境省中部地方環境事務所環境対策課の職員である。1999年環境庁に入庁し、当時数少ない女性レンジャーとして活躍した後、本省では地球規模の環境問題として世界の森林保全・砂漠化問題などについて携わり、国際NGOなどと関わっていた。現在、環境パートナーシップや持続可能な開発のための教育の普及を担当している。地域のニーズに耳を傾け、地域が持つ課題を政策という手法でいかに解決するか、日々奮闘している。

高木丈子さん

環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）に勤務する桜井温子さんは、NGO職員である。EPO中部は、環境省とNGOが協働し、持続可能な地域を実現するための環境パートナーシップ促進を事業目的としている。前述の高木さんをはじめ環境省のスタッフと意見を交わし、企業や学校関係者、市民が環境についてコミュニケーションを交わす場や、若い世代が環境について学ぶ場づくり、地域での実践事例の調査など、パートナーシップ事業を展開する上で重要となるマッチング、つなぐ役割を担っている。

桜井温子さん

次代の創り手として存在する

少し前に、ある男性に言われた言葉が脳裏に浮かんだ。「男性は人生の多くの時間を仕事のことだけ考えている。女性は子どもや家族のことを考えながら、その一部として仕事を捉えているのではないか」。たぶん、その答えは、人それぞれの置かれている環境や価値観、生き方によって違ってくる。未だに、女性の役割が限定され、女性を表現する数々の言葉にも見られるように、男性優位社会だったゆえの根深い問題が存在していることも事実である。しかし一方で、自分の意志で仕事をし、自分らしい暮らしを築きたいという女性が増えている。環境を仕事にしたい、活動したいと、政策形成や決定、商品企画、販売戦略や営業活動、国際社会・地域コミュニティなどの現場で、女性ゆえに受ける待遇にぶつかりながらも、社会に対して志を表現し、メッセージを多面的に投げかけている。

そういった女性たちと交流している私は、前述した問いに、「家族を想い次代の社会にとって価値ある仕事をつくっている」と答えたい。人間として重要なバランスであり、環境問題を扱う仕事や活動を生み出すためには、その「想い」が鍵になると考えるからである。想いは日々の暮らしから生まれるものであるゆえに、人々に伝わりやすく共感を得ることができる。さらに共感は人の連鎖をつくり、環境問題の解決のエネルギーと化していく。

私の役割はこの人たちをつなぎ、表現の場をつくることである。つながったチェーンと多様な場が女性の社会的存在価値をより高め、問題解決、ひいてはすべての命にやさしい、環境を大切にする社会を創りだす、と考えているからである。環境問題をはじめ現代社会が抱える多くの問題は、偏った性や世代のみの意志決定では解決しない。今を生きるすべての人々は、多様な価値を形づくる社会の創り手として存在する。